

2026

11.25 (水) 12:10
12:50

12:10-12:15

◆発表者紹介

12:15-12:40

◆プレゼン

12:40-12:50

◆質疑応答

オンライン
(Zoom)

登録はこちら▶▶

https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN_DXNGU1gERl-bDsrC4JShoQ

【技術支援】九州大学 Q-AOS

金融リテラシー、
金融教育と金融レジリエンス

Keywords

金融リテラシー

金融教育

金融レジリエンス

新型コロナウイルス

葉 聰明 教授

経済学研究院 経済工学部門

九州大学大学院経済学研究院で教授を務めております。1995年に台湾の国立政治大学商学部国際貿易学科を卒業し、商学士の学位を取得しました。1999年に筑波大学大学院で経営科学の修士号を、2002年に同大学院で博士（経営学）の学位を取得しました。九州大学に着任する前は、関西外国語大学および国際教養大学で教鞭を執っておりました。

専門はコーポレート・ファイナンスとパーソナル・ファイナンスです。これまでM&A、株主アクティビズム、メインバンク制、系列などをテーマとした論文を学術誌に発表してまいりました。また、学術書として『M&A and Corporate Governance in Japan』（2011年）と『Corporate Governance and Firm Value in Taiwan』（2008年）の2冊を出版しております。現在は、金融リテラシーと金融意思決定の関係について研究を進めております。

本研究は、新型コロナウイルス感染症の流行期における日本人3,492名を分析した結果、金融教育、とりわけ学校や職場で受けた金融教育が、金融リテラシーを高めうることがわかりました。また、学校・職場で金融教育を受けた人は、パンデミック期間中に所得や金融資産が減少する可能性が低く、2022年3月時点で自身の経済状況に対する満足度も高かったとの結果があきらかになりました。さらに、金融教育から得られる効果は、男性よりも女性の方が大きかったことが示されました。以上の結果は、金融教育が所得および資産の格差を縮小する手段となりうることを示唆しています。